

海外安全対策情報
2016年7月～9月

在オークランド総領事館

1 治安情勢・一般犯罪の傾向

(1) ニュージーランド国内の治安情勢

ニュージーランド国内では、これまで大きな治安上の問題は起きていません。しかし、犯罪の発生率については、日本のそれと比較した場合、犯罪認知件数自体はやや減少傾向ではあるものの依然として高く（2014年のNZ全土における犯罪の発生率は日本の約8.6倍）、防犯対策には十分な注意が必要です。

(2) 地図で見る犯罪発生件数

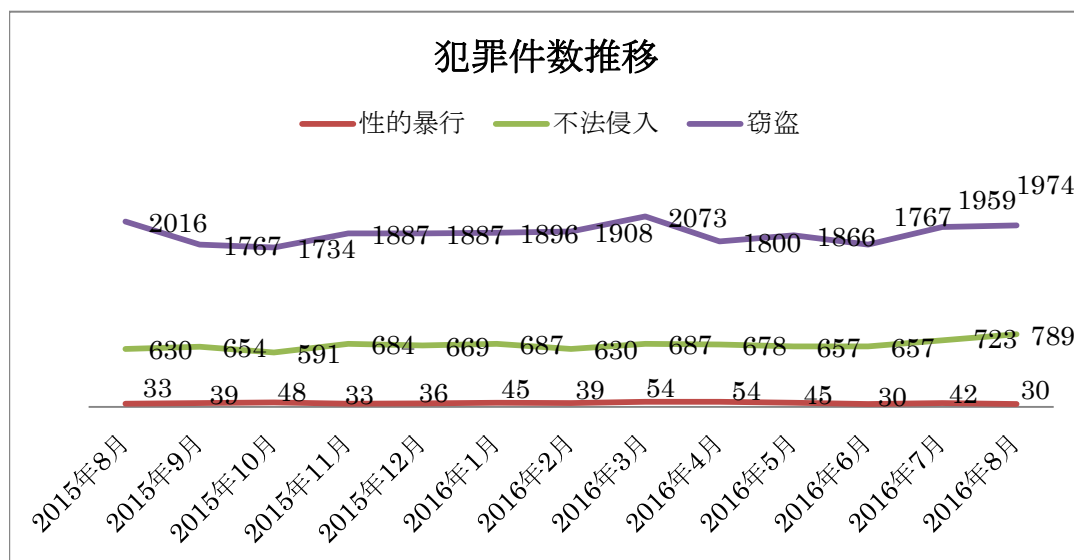
6月10日、NZ HERALD紙はウェブサイトにて「地図で見る犯罪発生件数」を掲載しました。下記リンクにアクセスして、あなたがお住まいの地域の状況をチェックしてみてください。

<http://insights.nzherald.co.nz/article/assaults-in-public-places>



(3) オークランドの犯罪傾向

オークランド警察が発表した犯罪件数の推移は次の通りです。



2 テロ・爆弾事件発生状況

(1) ニュージーランド国内には、テロ組織及び反政府武装勢力の存在は確認されておらず、国外のテロ組織と関連を有している勢力の存在も確認されていません。しかしながら、2014年11月、ジョン・キー首相はISILに関する講演の中で、「ニュージーランド国民は国際テロリズムの危機と脅威にさらされている」と発言しています。

(2) ニュージーランド政府は2015年2月にイスラム過激派組織ISILと闘うイラク軍の能力を高めるため143名の軍人派遣を決定しました。これに関連して、キー首相は「すでにISILはニュージーランドで要員のリクルートに成功しており、またニュージーランド国内では35～40名が監視対象となっている」旨発言しています。

(3) 2015年11月にパリで発生したテロ事件を受け、キー首相は次のように述べています。

「ニュージーランドは他国から地理的に離れていること及びインテリジェンス監視ネットワークに加盟していることもあり、他国と比べ、テロリストから攻撃を受ける脆弱性は低い。しかしながらテロリストの間で行われる精巧な通信技術の高まりにより、その活動を探知することが困難な状況となっており、ニュージーランドがまったく影響を受けないという保障はない。政府はニュージーランド国民に対して、全力を尽くす責任を負っており、異常で不相当と考えるいかなる行動についても監視するが、その全ての情報を得られるという保証はない。」

(4) なお、現在ニュージーランドのテロ脅威度は『とても低い(6段階中下から2番目)』

から『低い（6段階中下から3番目）』に一段階上昇しています。

3 主な犯罪事案（日本人が巻き込まれていない案件）

（1）7月6日午後12：30頃

ハミルトンのワイカト大学近くの駐車場にて女性（27歳）が、鉄製の金槌を振り回して近づいてきた男に襲われる事件が発生。女性は車から逃げ出し通行人に保護された。犯人は20歳前後であるが、いまだ逃走中。

（2）7月12日午後6時頃

ハミルトン警察が、覚醒剤及び銃器供給の疑いがある容疑者（36歳男）に対する家宅捜査を行った際、警察と犯人の間で銃撃事件が発生。犯人は警察の度重なる説得に応じず武装警察により射殺された。

覚醒剤及び銃器の入手ルートについて、警察は捜査中。

（3）7月14日午後1時頃

ロトルア警察が市内をパトロール中、不審な男を発見。男は長さ1.2mのナイフを所持していた。警察による警告、催涙スプレー、またスタンガンの効果もなく、男はナイフを所持したままショッピングセンターに向かっていたところ、警察が2度発砲。犯人は後日死亡。

事件当時男は覚醒剤により興奮状態であった模様。

（4）8月15日午後4時頃

オークランド市オネハンガのバス停でバスを待っていた15歳の少女が車で近づいてきた男に連れ去られそうになる事件が発生。

男はバス停の前で車を止め、「あなたのお母さんから頼まれて迎えに来た」と言い、それを少女が拒否すると、少女の腕をつかみ無理矢理車に連れ込もうとしたが、3～4人の少年達がバス停に近づいてきたため、男は逃走。

現在も男の身元は不明。

（5）9月29日

オークランド市内中心部にて爆破物騒ぎが発生。Quay Street に怪しいスーツケースがある旨通報を受け、警察は爆破物処理チームを派遣しこのスーツケースを爆破処理。事後の調査でスーツケースは空であり、爆破物ではなかったことが判明。警察は防犯カメラに写った男がスーツケースの持ち主であるとみて調査中。

4 主な日本人被害事案

場所 オークランド市内シルビアパーク駐車場 **被害者** 40代男性

バックを車のシート下に隠していたが、窓ガラスを割られ、バックを盗まれた。パスポート、パソコンなどが被害にあった他、窓ガラスの修理もするはめに。

場所 オークランド市内のバー **被害者** 20代女性

財布や携帯電話などを入れたバックをソファに置いて2時間ほど踊っていた間に、バックを盗まれた。現金600ドルの他、免許証、部屋の鍵も盗まれて一大事に。

場所 ファンガレイ付近 **被害者** 20代男性

ヒッチハイクで北上中、トイレ休憩にて。トイレから戻ったら車はすでになく、車の中に置いていたバックが盗難被害に。パスポート、財布など貴重品のほか、衣類など全て失う。たまたま通りかかった警察官の大変な尽力で、家のあるオークランドまで戻ることができた。